

市立加西病院だより



加西病院駐車場より朝日を撮影

『新病院の骨格を考え、意見をのべていこう』

目次

- ・病院事業管理者兼院長 新年の挨拶 P.2
- ・当院休日及び時間外救急の実態と課題 P.3
- ・疾病予防の重要性 P.4
- ・産婦人科の紹介 P.5
- ・職場紹介 (6 病棟) P.6
- ・病院機能評価を受審しました P.7
- ・新型コロナウイルス予防接種のお知らせ P.7
- ・第 42 回院内学会 P.8
- ・新病院建設応援基金を設置しました P.9
- ・皆様からのご厚意 P.9
- ・加西病院サポーターの会だより P.10・P.11
- ・外来診察担当表 P.12

新年のご挨拶と新病院建設の流れについて

病院事業管理者 兼 院長 生田 肇



新年あけましておめでとうございます。一昨年の4月に院長に就任して以来の二回目のお正月となりますが、気持ちも新たに病院業務に取り組んでいきます。市民の方々には引き続き病院のあり方、改善点についてご意見をいただきたいと思ひます。

さて、2025年の新病院開院にむけて、市と協力して設計について意見を述べていますが、当院が担っていく3つの役割、すなわち、加西市およびその近隣地域の急性期病院としての役割、北播磨圏域およびその近隣地域での回復期病院としての役割、第二種感染症指定医療機関としての役割（新型コロナウイルス感染症対応など）、新病院でもその役割を担ってまいります。

加西市が昨年実施した新病院建設にむけての市民アンケートの結果から、1. 医師・看護師を含めた医療の質を維持していくこと、2. 接遇・医療サービスの改善を図ることの2点が重要なポイントと考えています。2に関しては、具体的なことでは「身体拘束ゼロをめざす」や「院内デイケアの仕組みをつくる」など議論したいと思ひますが、今回は病床運用にかかわる病床利用率と近隣医療機関との連携について述べたいと思ひます。



図1：令和2年度病床利用率の推移

病床利用率という言葉は、報道などでコロナ重症病床の利用率が何%など聞きなれた言葉になっているかもしれませんが、新病院では現在の199病床から157病床に減床することになっており、どのような影響があるかを考えました。2020年度における当院の病床利用率は、月単位では79.1%から96.6%で推移し、その月間の最大差は17.5%です。日単位で見ますと、75%以下から100%以上となっており、25%以上の大きな差となっています（図1）。急性期を担う医療機関にとっては、急患を受け入れるための病床確保（空床）は医療サービスの観点から非常に重要です。一方、病院経営の観点では高い病床利用率の維持が必要です。これら矛盾しているような状況を解決するひとつの方法が医療連携であると思ひます。

当院を中心に考えますと、近隣急性期病院に四方を囲まれています。10km以上の一定距離があることがわかります。2020年度に神戸大学系列の基幹病院である加古川中央市民病院、北播磨総合医療センター、本年開院する兵庫県立はりま姫路総合医療センターと連携協定を結びました（図2）。これにより患者さんの診療連携だけでなく、医師の派遣においても連携しています。加えて、2021年度は回復期の患者さんの診療連携を行う目的に、兵庫あおの病院、土井病院、加古川磯病院と協定を結びました（図3）。この両方向の連携を行うことにより、有効な病床運用を行っていきたく思ひます。

以上、新年にあたりご挨拶をさせていただきましたが、サイズを小さくしたばかりの新しい病院ということにならないように知恵をしぼっていきたく思ひます。



図2：連携協定をむすんでいる急性期病院



図3：連携協定をむすんでいる回復期病院

当院休日及び時間外救急の実態と課題

副院長 兼 整形外科部長 箱木 知也

私も 62 歳を過ぎましたが、まだまだ救急外来でも先頭に立って処置をすることもあり、当院の休日及び時間外救急も担当しています。

当院は入院診療を行います、整形外科の救急外来では四肢外傷（骨折及び軟部損傷）が主な疾患になります。

救急外来というのは、医療ドラマのイメージが強いのか救急医療の専門医が見てくれると思っている方がいますが、実際はほとんどの中小規模病院の休日及び時間外の救急外来は各科の医師が当番制で診察しています。

当院では疾患で外科系と内科系に分け、内科系は内科医 1 人、外科系は外科医又は整形外科医 1 人の計 2 人の医師で対応しています。専門分野の疾患は専門外であっても可能であれば治療をおこないます。例えば休日や時間外の診察においては、四肢の外傷や骨折でも外科医が診察することもありますし、火傷及び虫さされの患者さんも、外科又は整形外科医師が診察しています。しかし、疾患及び外傷の状態によっては救急外来に連絡が入った時点で当院での対応ができない場合もあります。

当院は高齢者に多い大腿骨頸部骨折などは休日や時間外であっても整形外科医と連携するシステムができおり、積極的に四肢外傷患者さんを受け入れていきます。専門外の診察は、専門医へ引き継ぐまでの一時的な処置を行うか、または専門医が緊急で診察しなければならないかを判断しています。緊急を要さない場合は、後日、一般外来での専門医受診につなげています。

緊急を要する場合は、可能であれば当院の専門医に依頼したり、無理であれば他の病院へ搬送するようにしています。

当院の救急外来は専門であったとしても外科系・内科系に分かれて 1 人で対応しているため、患者さんが重なった場合や緊急の処置や手術をしている場合は、長時間待っていただくいたり、診察できない場合もあります。休日及び時間外で専門医の救急診察を最初から希望される場合は、近隣の他の病院でも同じような救急体制になっていると思われるので、何科が担当しているのか各病院に確認してから受診ください。



当院の整形外科は、2004 年は 6 人の医師がいましたが、現在は私を含め 4 人体制で診療を行っています。そのため加西市全体の休日及び時間外の救急や整形外科疾患全てをカバーするのは困難になってきており、近隣の医院や病院の協力が必要になっています。入院した患者さんについても、急性期が過ぎた患者さんは当院の地域包括ケア病棟への移行や地域連携バスを使いながら、長期に理学療法ができる回復期のリハビリテーション病院へ転院してもらったりします。また退院後には、地域の開業医の先生方へも紹介させてもらい連携をすすめています。

新病院ではできるだけ効率化を図り、市民の皆様の救急医療に可能な限り対応できる病院を目指していますが、上記のとおり限界もあります。近隣病院とさらに連携を深めながら加西市の救急医療を支えていきたいと考えていますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

新病院ではできるだけ効率化を図り、市民の皆様の救急医療に可能な限り対応できる病院を目指していますが、上記のとおり限界もあります。近隣病院とさらに連携を深めながら加西市の救急医療を支えていきたいと考えていますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

新病院ではできるだけ効率化を図り、市民の皆様の救急医療に可能な限り対応できる病院を目指していますが、上記のとおり限界もあります。近隣病院とさらに連携を深めながら加西市の救急医療を支えていきたいと考えていますので、ご理解とご協力をお願いいたします。



疾病予防の重要性

診療部長 兼 リハビリテーション科部長 七星 雅一

病気は発症したときの急性期治療に注目されがちですが、予防という観点も大切です。生活習慣病予防は、一次予防、二次予防、三次予防にわけて考えられています。一次予防は健康づくり、二次予防は病気の早期発見・早期治療、三次予防は疾病の治療・重度化予防とされています。

循環器疾患領域ではどうでしょうか。例えば、心筋梗塞二次予防は、心筋梗塞後の症例を心血管系事故から予防することです。(心臓死、心筋梗塞、狭心症、心不全入院、脳卒中などです。)心臓を栄養している血管、つまり冠動脈は3本からなります。心筋梗塞は冠動脈が血栓で閉塞することで心筋が壊死をおこす病気です。早い段階でカテーテル治療を受けることができれば命が助かり、心臓のポンプ機能低下を最小限におさえることができます。しかし、一度で済まずに、2本目3本目の冠動脈において心筋梗塞を繰り返してしまうとどうなるのでしょうか。そのたびごとに心臓の働きは悪くなっていきます。息切れやむくみを引き起こして、苦しい症状をかかえて生活をしなければならぬかもしれません。命に係わる状態になるかもしれません。動脈硬化は全身の病気です。血管の一つの箇所を治療しても、そのままでは他の血管での再発の危険性は減らないのです。だからこそ再発予防という観点は大切なのです。

「基礎にある動脈硬化や心不全の進行を抑制し、再発・再入院・死亡を減少させ、快適で活動的な生活の実現を目指すこと」、つまりは心臓リハビリテーションの目的がそこにあります。運動療法、教育、栄養食事指導、服薬指導、禁煙、生活指導など広範囲、長期にわたって行っていかなければならないことです。そ

して、危険因子(糖尿病、高血圧症、脂質異常症などの基礎疾患)をコントロールする必要があります。薬物療法は、食事療法、運動療法、生活改善がきちんとなされてこそ、その効果を最大限に発揮します。患者さん自身、ないしはサポートにあたるご家族が病気に対する正確な知識をもって、積極的にのぞむことが必要なのです。しかし、自分一人だけで行うことは困難です。継続も難しいことでしょう。

当院には外来での心臓リハビリテーションプログラムがあります。入院時に学んだことを、普段の生活で実践するにあたり、疑問点や不安な点を質問することができます。一般外来診察の場では、時間的制約が多く、聞きづらいことであっても、理学療法士(心臓リハビリテーション指導士)や医師に気軽に尋ねることができます。月曜日から金曜日までの毎日14時から15時までの1時間を設定しています。体調確認のちに、準備体操、有酸素運動(自転車)、レジスタンストレーニング、整理体操のメニューで行っています。有酸素運動のあいだにビデオ視聴を並行して行い、学習時間も設けています。

心臓リハビリテーションの対象(保険適応)は、心筋梗塞と狭心症を含む虚血性心疾患、慢性心不全、大血管疾患、末梢閉塞性動脈硬化症、心臓大血管手術後の疾患になります。(希望する方すべてにできればよいのですが制約があります。)興味を持たれた方は、リハビリテーション室までお越しいただき、気軽にお尋ねください。

自分の病気について理解を深めて、再発予防、リスクコントロールに取り組んでもらうことで、より健康に過ごせることが大切だと考えています。



参照：日本循環器学会ガイドライン

産婦人科の紹介

診療部長 兼 産婦人科部長 東田 太郎

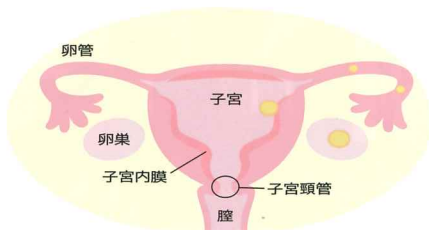
2018年1月に加西病院に着任してから2回目の寄稿となります。この4年間で産婦人科には変化がありました。2018年に産婦人科医が1名退職、2019年末に産婦人科医が更に1名退職して産婦人科は1人体制となり2020年1月で分娩が休止、2月からは未曾有の感染症が世界中を席卷して今に至ります。分娩休止に伴い産科病棟（旧マタニティー）の常勤の助産師は3人となりました。現在は今までの経験を活かし、「産後ケアダイヤル」を活用して産後の母子に真摯に寄り添う母乳外来を行っており、私も助産師を助けながら産婦人科外来を行っています。

一昨年の分娩休止後、「今後どんな産婦人科の良い医療を提供できるのか」と試行錯誤した結果、婦人科では癌の先進医療手術はできなくても子宮頸癌を予防して早期発見をするということを目指しました。

婦人科、乳腺、喀痰、尿、甲状腺など採取した細胞診断の精度を向上させる液状化検体処理法（通称LBC）の器械を昨年10月に購入しました。本年度から加西市の子宮がん検診はLBC法を外注委託で開始、11月からは院内で可能となりました。県内でLBC導入する自治体はまだ少ないのですが子宮頸癌の早期発見のみならず全ての領域で寄与します。診断業務は検査科の3名の細胞検査士と共同で行っており皆様の日常を支えています。

子宮頸癌の予防ですが子宮頸癌ワクチンがあります。重篤性は新型コロナワクチン等と同様かそれ以下であり厚労省による積極的勧奨が近々再開予定です。薬剤部の協力で4価ワクチン（13-16歳は無料）に加え更に予防率の高い9価ワクチン（自費）も導入しました。また、県内の中高生の性教育講演会も継続しています。

病を抱えた人との邂逅が医師としての自分を育ててくれました。今度は私から、病で傷つき前を向き生きる全ての人に「頑張ってください」のエールを送ります。これからも加西市民の皆様の健康を祈念しています。



助産師に相談してみませんか

外来課長（アドバンス助産師） 岩本 綾子



加西市は出産を取り扱う施設がないという状況になっています。加西病院では現在分娩は休止していますが、外来には助産師が勤務しています。妊娠・出産・育児・母乳育児など、困りごとに母乳外来として対応しています。例えば、「初めての出産で母乳が足りているか心配」と産後ケアダイヤルに相談の電話を頂くことがあります。外来診察中であればその時には十分にお話を伺う事が難しくても、電話をかけなおしてお話しています。電話で解決する場合もありますが、日時を相談して来院して頂き直接お話をお伺いする場合も多くあります。もちろん赤ちゃんを連れての来院も大歓迎で、体重を測定しながら母乳育児についてのアドバイスや必要時はおっぱいマッサージもしています。

産後に子育ての心配があり、よく眠れない。疲れてしまって一度ゆっくりしたいといったことはありませんか。日帰りや泊りで助産師のケアを受けながら、ゆっくり過ごしていただく産後ケアの対応もしています。分娩を他院でしたので、加西病院に相談できないと思われていませんか？分娩を扱っている施設はお産に対応するだけで精一杯という施設もあるため、加西市の方はもちろん加西市以外のママと赤ちゃんの相談やケアにも対応しています。「早く相談すればよかった」「相談して安心した」とのお声を頂いています。

加西市には母子に対して助成している制度がたくさんあり、加西病院で対応している制度には、母乳外来・産後ケア・産前産後サポート事業（おやこで体操）があります。ホームページをご覧ください。

お問い合わせは、産後ケアダイヤル
090-5041-8760 にお電話ください。

職場紹介 (6 病棟)

病棟副課長 定行昌代

6 病棟は、病床数 45 床の循環器疾患を主とした内科全般と泌尿器科の疾患を治療する急性期病棟です。心筋梗塞、不整脈、心不全、呼吸不全、肺炎、敗血症、腎不全、尿路感染症、腎盂腎炎、尿管結石、腎結石、前立腺肥大、膀胱腫瘍などの患者さんが入院されています。

主な検査・治療として、循環器内科では心臓血管造影検査、ペースメーカー植え込み術、必要時血液透析も行っています。泌尿器科では前立腺生検、経尿道的前立腺切除術、経尿道的膀胱腫瘍切除術、経尿道的結石破碎術などの手術を行っています。5 床の CCU (冠動脈という心臓の重要な血管の疾患を集中的に治療する部屋) があり、ここでは主に心筋梗塞、重篤な不整脈などの重症患者さんに対する重点的な治療と観察・ケアを行っています。

急性期病棟に勤務する看護師は、患者さんが「いつもと違い変だな」という異常の予兆にいち早く気づくことが特に重要となってきます。そこで自己学習はもちろん、病棟で計画的に勉強会を行ない知識の向上に努め実践の場に活かしています。昨年度に当病棟でコードレッド (院内において、緊急の患者が発生した際にコールされるコード) の要請件数は 4 件でしたが、今年度は 2 件に減少し、急変前の予兆に気付き早く対応ができています。

一方で、循環器疾患の重症患者さんは最善の治療を行っていても状態が急変し、心肺静止をおこす可能性

が他の疾患に比べると高い状態にあります。そこで、当病棟では常に急変時の対応が行えるように、急変時の模擬訓練 (シミュレーション) を行っています。

状態が変化した時、ドキドキするのは誰でも同じですが、そんな時に冷静に対応出来ることが求められます。日頃から常に患者さんが急変された時のシミュレーションを行い、急変時の振り返りをするなど訓練を重ねています。シミュレーションは、STEP・UP しながら 3 回に分けて実施しています。

一回目：急変患者の発見から意識、呼吸の確認、迅速な応援要請、胸骨圧迫開始までの訓練。

二回目：応援到着後から除細動 (AED) 使用、医師が指示した薬剤投与などの訓練。

三回目：シミュレーションの総集編 (発見から蘇生までの過程) となる訓練。その他、心臓マッサージを行う機器の装着、気管挿管介助など急変対応の訓練をしています。また、訓練前の打ち合わせでは、チーム力を高める声掛けを行い、事後の振り返りでは良かった所を認め合いながら次へ活かそうと一生懸命に取り組んでいます。

更に、私達は命を救うだけでなく、救命した後の QOL (生活の質) も考え、患者・ご家族様に寄り添った看護を行う様に心掛けています。信頼できる医師と共に協力しながら、最善の医療が提供できるように日々頑張っていますので、安心して 6 病棟での入院生活をお送り下さい。



情報トピックス

新型コロナウイルスワクチン接種のお知らせ

新型コロナウイルスのワクチン接種について

- ・接種期間 期間の設定は現在ありません。
- ・対象者 以下のいずれかを満たす方
 - ① 12歳以上で加西在住の方
 - ② 当院に通院中の方
 - ※1回目2回目を当院で接種できる方
 - ※12歳～18歳の方は保護者同伴
- ・接種日 毎月曜日
 - ※祝日など接種がない日もあります
- ・予約時に持参していただくもの
 - 接種券（接種当日も必要です）
 - 身分証明書（運転免許証、保険証など）
- ・予約受付時間と場所（来院が必要です）
 - 8:30～17:00 地域医療室相談窓口

よろしくお祈りします



※3回目のワクチン接種に関しては、詳細が決まりましたらホームページにてお知らせします。

病院機能評価を受審しました

市立加西病院は、地域医療を支える市内唯一の急性期疾患対応可能な基幹の病院です。「ここは 病めるものが心を安らげ 信じ 喜べる 休息の場である」ということを基本理念とし、安全、良質、最善の医療を行うだけでなく、地域医療連携を築き、教育や研修で良き医療人を育てるよう活動をしています。この活動の客観的な評価をしてもらう方法として、公益財団法人日本医療機能評価機構が行う「病院機能評価」の受審があります。これまで5年に1度の割合で受審しており、5回目の受審を令和3年12月2・3日に行いました。病院機能評価は、国民が安全で安心な医療が受けられるよう、4つの評価対象領域から構成される評価項目を用いて、病院組織全体の運営管理および提供される医療について評価を行います。第1領域では、「患者中心の医療の推進」を、第2、3領域では「良質な医療の実践」を、第4領域では「理念達成に向けた組織運営」について評価します。

病院機能評価により、一定の水準を満たした病院は「認定病院」となり、左図の認定証が贈られます。認定病院は、地域に根ざし、安全・安心、信頼と納得の得られる医療サービスを提供すべく、日常的に努力している病院と言えます。当院の審査結果が通知されるのはまだ先となりますが、職員の日々の努力・活動がきちんと評価され、利用者の皆様に還元されている証明として、院内で認定証ポスターを探してみてください。



2017年4月15日（認定4回目）

第42回 院内学会

令和3年10月23日

加西病院では、年に一度院内学会（院内研究発表会）を開催しています。昨年に続き今年も新型コロナウイルス感染防止のため、オンライン会議ツールを活用しての開催となり、約100人の職員が参加しました。一般演題は、日頃の業務の工夫や研究成果などの発表があり、パネルディスカッションでは、「新病院建設の進捗状況」をテーマに発表とディスカッションが行われました。



一般研究発表

3病棟 ストーマグループ ～ストーマケアの現状と課題～

3病棟では人工肛門（以下ストーマとする）を造設する患者は年間約15名である。皮膚排泄ケア認定看護師が不在となったあと、病棟看護師が主体となりストーマグループを結成し、ストーマ造設術を受けた患者に対する看護の質向上を目指した。eラーニングで知識を習得し、装具交換は実践をチェックしながら技術習得した。装具選択のアセスメントについてもカンファレンスを活用しながら能力の向上に努めている。ストーマサイトマーキングについても技術習得を目指し実践している。さらに、入院から退院まで一貫して必要な支援が受けられるようにストーマ管理のマニュアルを作成した。ストーマ管理や装具選択のツール作成と患者・家族へ指導できる人材の育成が今後の課題である。

腹臥位療法推進委員会 ～腹臥位療法の頸部拘縮改善の効果～

当院では、平成11年4月から腹臥位療法を実践している。腹臥位療法には様々な効果があり、その一つに拘縮改善にも効果があると言われている。頸部後屈拘縮は、頸部後屈が後頸部の筋緊張性拘縮または姿勢反射によって生じ、腹臥位療法でこの緊張や反射が解消されて後屈が軽減し、誤嚥が防止されると言われている。誤嚥性肺炎を繰り返す頸部拘縮の患者には有効であるため、腹臥位療法実施時には頭部の自重がかかる腹臥位を意識的に取り組んでいきたい。腹臥位療法は、「誰でも」「いつでも」「どこでも」実施が可能で、コストがかからない利点がある。患者のADL、QOL

拡大のためにも今後も腹臥位療法を推奨していきたい。

リハビリテーション科 ～嚥下評価入院について～

脳卒中や神経筋疾患のような、嚥下機能に直接的な影響を与える疾患がなくても、加齢に伴い嚥下機能は徐々に低下し、誤嚥性肺炎のリスク要因となり得る。高齢者にとって「安全に食べられること」は日常生活を送るうえで安心に直結しており、高齢者の食に関するサポートを行えるように「嚥下評価入院」の受入れを始めた。この入院は飲み込みに不安のある在宅療養の方や施設入所中の方を対象に、3泊4日で嚥下機能の評価や食事方法、口腔ケア方法など、多職種が連携して今後の食事の方法について検討し、患者や家族、患者の支援者等をサポートするための入院である。高齢者が対象であるため、入院によるせん妄のリスクがあることや退院後のフォローアップをどのように行うかが今後の課題である。

中央検査科 ～当院の新型コロナウイルス検査数の推移～

新型コロナウイルス感染症（以下COVID-19）は新型コロナウイルス（以下CoV2）による新興感染症で全世界に広がった。当院では抗原検査を活用することにより、迅速スクリーニングで感染トリージを行うことができた。抗原検査に加えPCR検査を導入し多くの検体を処理、結果報告までの時間を短縮することができた。今後は感染者の早期発見の院内対応から、ワクチン接種後の抗体検査の公衆衛生の対応まで担い、質の高い検査を追求していきたい。

パネルディスカッション

テーマ：「新病院建設の進捗状況」

座長：学術教育委員長

パネルディスカッションでは、院長、新病院建設準備室から発表があり、新病院建設について活発な意見交換や情報共有が行われました。

新病院建設応援基金を設置しました

加西市では市内唯一の総合病院である市立加西病院の新病院建設（建替え）計画に着手しています。地域医療需要に応え、地域の信頼を得られる病院の建設に向けて、趣旨にご賛同いただく皆様に広くご寄付をお願いし、その受け皿となる基金を設置いたしました。

■ 設置時期

令和3年9月28日（令和3年9月市議会に基金条例を提案・議決されました。）

■ 使 途

新病院建設事業に要する経費

■ 建設計画進捗状況

2025年度開院を目指して、本年度は基本設計を策定中。

■ 趣 意

市立加西病院は市内唯一の総合病院として地域医療を守り、信頼と思いやりのある医療の提供に努めています。当院は、昭和28年10月に開設した「北条町富田村組合立国保北条病院」を前身とし、昭和42年4月に「加西市民病院」と改称、昭和49年9月には市街地を一望する現在の場所に新築移転して名称を「市立加西病院」と改めてから半世紀を迎えようとしています。

現病院施設のうち、昭和49年移転当時に建てた中央館は、施設・設備の老朽化が進み、耐震基準も満たしていないため、建替えが必要となっています。そのため、加西市は将来の地域医療を守るために、加西市新病院建設基本計画を策定し、『高齢化が進展する加西市の医療ニーズに対応』し、『現状の市立加西病院が有する急性期～回復期の入院機能は維持』しつつ、『近隣の医療機関との役割分担の明確化・地域医療連携の強化』を行い、併せて『病院の経営改革を進め』ながら、計画に沿って新病院を建設することとしています。

新病院の建設は、加西市の最も大きなプロジェクトとなります。皆様の期待に応え、地域の信頼を得られる病院の建設に向けて、趣旨にご賛同いただく皆様に広くご寄付をお願いいたします。

ご協力いただきましたご芳志は、病院建設資金として有効に活用させていただきます。

■ 問合せ先

新病院建設準備室（市立加西病院事務局内） 電話 0790-42-2200



みなさまの温かいご厚意に感謝いたします

ご寄附くださった方の中で、お名前等の公表を了承された方をご紹介します。

（令和3年10月末時点）

日付	寄付者氏名	寄付内容	数量
R3.7.7	株式会社千石 代表取締役 千石 唯司 様	寄付金	7,000,000 円
R3.9.9	兵庫ヤクルト販売株式会社 様	ヤクルト 400LT	1750 本
R3.10.20	三和リール株式会社 代表取締役 濱本 泰秀 様	普通自動車	1 台
R3.10.25	久永 正人 様	車椅子	1 台

加西病院サポーターの会だより



令和2年度決算報告書 R.2.10.1~R3.9.30	
収入金額	644,532 円
前年度繰越金	178,529 円
会費	116,000 円
賛助会員 (@10,000×35社)	350,000 円
寄付金	0 円
利息	3 円
支出金額	276,184 円
事務費 (郵送料外)	4,210 円
総会費	15,750 円
事業費 (年末年始勤務医師 慰労訪問活動外)	256,224 円
次年度へ繰越金	368,348 円

令和3年度予算書 R.3.10.1~R4.9.30	
収入金額	890,000 円
前年度繰越金	368,348 円
会費 (@500×320人)	160,000 円
賛助会費 (@10,000×30社)	300,000 円
負担金 (事業参加者自己負担金)	60,000 円
寄付金	1,000 円
利息	652 円
支出金額	890,000 円
事務費	30,000 円
総会費	80,000 円
事業費	340,000 円
予備費・他	440,000 円

※監査報告「令和2年度会計決算について、関係帳簿等を厳正に監査した結果、処理されていたことを認めます。」

監査日：令和3年10月13日 監査委員：長田達子・田中俊宏

本会の令和3年度定期総会を令和3年10月25日 加西市健康福祉会館研修室②で開催し、議案について全て原案どおり可決いたしました。その内容についてお知らせします

令和2年度 事業報告

(令和2年10月1日~令和3年9月30日)

令和2 10.1	花づくりボランティア作業	役員 10名
10.12	令和元年度 会計監査	監査 2名・役員 3名
10.22	令和2年度 総会	理事全員出席
11.20	加西病院玄関前 野外リハ庭園花植え	役員・理事 14名
12.20	加西病院 建設にかかる市民ワークショップ	理事 5名参加
12.28	「新型コロナウイルス感染症」対応に奮闘する病院職員への敬意と感謝を伝える メッセージ (色紙 20枚) と差し入れ	生田院長、幹部職員 と役員・理事 5名
令和3年 1.1	加西病院サポーターの会だより発行 (No.6)	
4.22	病院玄関、野外リハビリ庭園の花植え	役員・理事 10名
4.29	コロナ禍での医療活動への感謝と応援メッセージ、差し入れ	生田院長、病院幹部役員 4名
5.12	フラワーセンター 花ボランティア	役員・理事 8名
5.13	フラワーセンター 花ボランティア	役員 7名
6.18	サポーター会員 高見忍氏による寄贈「リハビリテーション用平行棒」	役員・理事 13名
8.1	加西病院サポーターの会だより発行 (No.7)	
8.23	加西病院職員に「猛暑のお見舞とコロナ対応による感謝メッセージ 「加西ぶどう」差し入れ	生田院長、幹部職員と役員 3名
9.30	加西病院葉ボタン植栽	役員・理事 15名

☆年間を通じての活動☆

花壇の水遣り	毎月当番制で水やり当番：毎日
社会保険労務士による無料相談	毎月 第2週と第4週の水曜日の午前中
「加西病院サポーターの会だより」発行	1月・8月 年2回 加西市内全戸配布
病院中央玄関での介助ボランティア	中央玄関での解除ボランティアは「新型コロナウイルス感染症」に対する 非常事態宣言下で活動休止





会長挨拶

猛威をふるった新型コロナウイルス感染症第5波も沈静化しましたが、新たな変異株の出現で油断できない状況であります。

加西病院は北播磨地域唯一の第二種感染症指定病院として、当初から病院長のリーダーシップのもとと感染対策の充実に取り組み、日々市民の命と健康を守ってこられました。これも医療従事者の皆様方の真摯なご努力があってこそと感謝いたします。

しかし、人々の気の緩み、新しい変異株の出現で新たな感染の波を引き起こす可能性もあります。

加西病院は、新型コロナウイルス感染症第6波に備えるとともに継続して持続可能な地域医療を提供できる取り組みを推進されています。やはり頼りになるのは加西病院です。

サポーターの会は2017年9月に発足し、5年が経過しました。本会がここまで活動できたのは、加西病院関係者のご理解と市民の皆様や会員のご支援のおかげと感謝しています。

今後は安心な地域医療の推進のために引き続き加西病院の支援と、市民の健康増進に繋がる医学講座の開催など活動の幅を広げていきたいと考えています。

本会の活動に対し、更なるご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

令和3年度 役員名簿

会長	よしだ ひろし 吉田 廣	理事	ふじた ちえこ 藤田 智恵子	理事	ますだ のりこ 増田 憲子
副会長	くまがい かよ 熊谷 佳代	理事	しばた のぶこ 柴田 信子	理事	おだ ゆうこ 小田 裕子
副会長	まつおか かつみ 松岡 勝己	理事	やました きみあき 山下 公明	理事	はった ちづ 初田 ちづ
会計	たかみ としお 高見 登志男	理事	ないとう さとみ 内藤 聡美	監事	ながた たつこ 長田 達子
理事	なかやす たかし 中安 高	理事	すずき やすお 鈴木 保夫	監事	たなか としひろ 田中 俊宏
理事	みやけ ひろあき 三宅 博明	理事	かたおか よしのり 片岡 良矩	事務局	おだつねよ やましたむ つこ 小田常代 山下睦典子

令和3年度 活動計画

- 令和3.10.1 年間を通じて花の水やり 地区当番制
年間を通じて介助ボランティア 毎週月曜日午前中2名
～ 9.30 (新型コロナ感染状況により活動再開を判断)
社会保険労務士による無料相談 毎月第2、第4週 水曜日 午前中
定例役員会開催
10.22 令和3年度 総会 ※年会費納付
11月 秋の花植え
12月 年末加西病院職員に向けて感謝の訪問と差し入れ
1月 加西病院サポーターの会だより発行 (No.8)
4月 ゴールデンウィーク期間中の加西病院職員に対する感謝訪問
5月 春の花植え
8月 加西病院サポーターの会だより発行 (No.9)
加西病院職員に対し猛暑お見舞いと感謝訪問「加西ぶどう」差し入れ
9月 会計監査

- 随時 ・ 医学講座開催 「新型コロナウイルス感染症」の収束状況により計画
随時 ・ 会員拡大に向けて活動 (一般会員、賛助会員)
随時 ・ 医師招聘活動への協力



市立加西病院 外来診察担当表

診療科	診療	日	月	火	水	木	金	備考
内科	初診	8	※ 山谷	※ 杉江	※ 北嶋	※ 小林 征	※ 河合	<ul style="list-style-type: none"> ●金曜日17診の石井Drの診察は10:00～となります。 ●糖尿病看護外来とフットケア外来は火・木曜日の予約制です。 ●火曜日26診の七星Drは午後に睡眠時無呼吸症候群外来を行っています。 ●水曜日6診は第1・3・5高原Dr 第2・4鈴木Dr 第4谷Drとなります ●水曜日17診は第1・3・5高原Dr 第2鈴木Dr 第4谷Drとなります。
	初再診	7	※ 破磯川	※ 黒澤	※ 野口	※ 七星	※ 蓬菜	
	予約診	6	稲垣 (消化)	山谷 (内分泌・代謝)	午前 神戸大学	山谷 (糖尿病)	松浦	
		5	杉江	河合 (心臓)	小林 征 (心臓)	蓬菜 (消化)	午前 堀藤 岡	
		26		午後 七星	桂田 直 (呼吸)		羽間 (呼吸)	
		17	町口 (腎臓)		午後 神戸大学 (ペースメーカー)		石井 (血液)	
地域医療室	人間ドック	30	北嶋	井上 広	杉江	井上 広	山谷	
脳神経内科	予約診	35	森本		岡山	的場		<ul style="list-style-type: none"> ●完全予約制です。 ●ボツリ又注射は水曜日・木曜日予約制です。
外科		18	※ 生田		※ 生田	※ 西村		●ストーマ外来は第3木曜日の予約制です。
		20	※ 高松	※ 交代で診察	※ 西村	※ 阿部	※ 田中	
整形外科	初診	21	箱木	交代で診察	宮島	飯盛	※ 飛田	
	再診	22	※ 宮島		※ 箱木	※ 飛田	※ 飯盛	
		23	※ 飛田		※ 飯盛	※ 箱木	※ 宮島	
耳鼻咽喉科		1	堅田	堅田	堅田	神戸大学	堅田	<ul style="list-style-type: none"> ●幼児・小中高校生の再診を水曜日の午後に行っています。(学童外来) ●木曜日午後からは手術日となります。 ●嚥下機能評価外来は火曜日・金曜日14:00の予約制です。
精神科 (完全予約制)	予約診 (午前)	1	久保田	松田	松田	久保田	久保田	<ul style="list-style-type: none"> ●完全予約制です。 ●認知症の鑑別診断や認知症自動車運転の診断書に関しては、地域医療室を通して、ご相談ください。 ●現在、初診は受付不可です。
		2	松田		久保田	松田		
	予約診 (午後)	1				久保田	久保田	
		2			久保田	松田		
産婦人科	午前 初再診	13	※ 東田	※ 東田		※ 東田	※ 東田	<ul style="list-style-type: none"> ●水曜日の午後は手術日です。 ●母乳外来は電話でご相談ください。
	午後 予約診			東田				
小児科	午前 初再診	10				※ 野津 (夜尿・腎臓病)		<ul style="list-style-type: none"> ●木曜日・金曜日両日も予防接種は予約制です。 ●金曜日午後の初再診は前もって電話にてご確認ください。
	午後 予約診						※ 水戸 (慢性疾患)	
眼科	初再診 (9:00~11:00)	25(1)	※ 濱田	※ 坂井	※ 濱田	※ 濱田	※ 坂井	<ul style="list-style-type: none"> ●外来の受付時間は11:00までとなります。 ●コンタクト外来は、コンタクトレンズの当日受け渡しは出来ませんのでご了承ください。 ●緑内障外来は月に1回、予約制です。
		25(2)	※ 渡部	※ 渡部	※ 渡部	※ 渡部	※ 濱田	
	予約診 (11:00~)				コンタクト外来 (第2水曜日のみ)			
泌尿器科		11	※ 武縄 (10:30まで)	※ 武縄	※ 武縄	※ 金谷	※ 武縄	<ul style="list-style-type: none"> ●月曜日の受付時間は10:30までとなります。 ●木曜日の外来受付時間が手術により変更になる場合があります。
皮膚科	初再診	2	※ 田中		※ 田中	※ 田中 (10:30まで)		●木曜日の受付時間は10:30までとなります。
			※ 神戸大学 (午前)	※ 神戸大学 (午前)		※ 神戸大学 (午前)		
腫瘍外来	初再診	17			※ 佐々木 (放射線治療連携)			<ul style="list-style-type: none"> ●リンパ浮腫外来は水曜日の午前予約制です。 ●佐々木Drの診察は9:00~10:30となります。また、第3水曜日は休診です。
麻酔科	専門外来	16	林 (術前診/ﾊﾞｲｸﾘﾆｯｸ) 魚住・森川 (術前診)		魚住・森川 (術前診)	林 (バインクリニック)		●バインクリニックの初診は木曜日のみです。紹介状をご持参ください。

【受付時間】 ○初診受付 (午前8時30分～11時30分)
 ○再診受付 (午前8時00分～11時30分)
 ○予約診受付 (午前8時00分～17時00分)

受付窓口②へお越しください

- ・初めて加西病院を受診される方
- ・今回受診される科が初めての方
- ・または、1年以上診察を受けていない方
- ・診察券をお持ちでない方

- 診療科により、受付時間や休診日が異なる場合があります。
- ※は、予約の患者さまも含まれます。
- 診察券により再来受診機で受付を行ってください。(再来院・予約診の方も)